

Ⅱ 業種別産業の動向

1 農 林 業

(1) 農林業の現況

◆ 概要

都市農業は、農業就業人口の減少と高齢化、担い手不足、兼業化の進行、経営規模の縮小、都市化の進展による生産環境の悪化等、種々の問題を抱えている。更に、コメの生産調整や輸入農産物の急増等も加わり、都市農業を取り巻く環境は厳しさを増している。

また、近年は、化学肥料や農薬への依存を減らし、消費者ニーズに対応したより安全で良質な農産物の生産を行う環境保全型農業の確立が望まれるなど、転換期を迎えている。

林業についても、自給率の低下と木材価格の低迷、労働力の減少と高齢化や、放置森林の増加等多数の問題を抱える中、森林の持つ多面的機能の維持増進を図るため、林業の活性化を通じた森林の健全な育成が課題となっている。

また、社会経済情勢の変化に伴い、豊かさやゆとりのある生活を求めて、農林業の体験希望者が増え、土や自然との触れ合いを求める市民が増加しており、農地等の多様な機能を生かした新しい農林業を市民と一体となって展開していくことが必要になっている。

(2) 農 業

◆ 概要

京都市においては、古く都であったこと、大都市近郊という地の利、地味の良さ等から多くの農産物が生産され、伝統的に活発な農業が行われている。

しかし、農地と宅地の混在化、経営規模の零細化等、都市農業を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しており、より高度な技術の普及、消費者ニーズに合う新しい品目や分野の開拓、経営コストの低減等

を進める必要がある。

このような課題に対処するため、本市では施設の近代化、土地基盤整備事業、市内産品の消費啓発等を実施している。

◆ 農業の状況

平成 18 年度京都市農林統計資料によると、農家戸数は 7,313 戸で、うち専業農家が 954 戸（構成比 13.0%）、農業を主とする兼業農家が 1,242 戸（同 17.0%）、農業を従とする兼業農家が 5,117 戸（同 70.0%）となっている〔表Ⅱ-1-2-1、図Ⅱ-1-2-1〕。

農家人口は 31,864 人で、男女別に見ると男性 15,014 人、女性 16,850 人となっている〔表Ⅱ-1-2-2、図Ⅱ-1-2-2〕。

耕地面積は 3,289.0ha で、田が 2,488.5ha と全体の 75.7%を占めている〔表Ⅱ-1-2-3、図Ⅱ-1-2-3〕。

前年に比べわずかながら、農家戸数、農家人口、及び、耕地面積は減少している。

◆ 主要農作物

京都市では、都への献上等の形で持ち込まれた多種多様な野菜が古くから栽培され、その長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。

京都市は、京都府内最大の野菜生産地であり、府内の野菜生産額の 55.1%を占めている。

平成 18～19 年京都農林水産統計年報及び平成 18 年度京都市農林統計資料によると、京都市で生産される農作物のうち、生産額が一番多いのは野菜の 136 億 6 千万円で、農作物全体の 87.1%を占めており、次いで主食である米の 14 億 3 千万円で、10.5%を占めている〔表Ⅱ-1-2-4〕。

◆ 代表的な京の伝統野菜

【賀茂なす】

貞享元年（1684 年）の文献に記載があり、古くは現在の左京区吉田田中地区で栽培されていたが、明治 45 年に北区上賀茂西賀茂及びその付近で、大型な特産品種として栽培されるようになった。起源については、明らかでない。



【聖護院だいこん】

文政年間（1816 年～1830 年）に、現在の左京区聖護院に住む農家が尾張の国から黒谷の金戒光明寺に奉納された大根を譲り受けて栽培し、採種を続けるうちに生まれた短形のものが土地に合い、品質の良い聖護院だいこんになったようである。



【堀川ごぼう】

聚楽第の堀跡へ捨てられたゴミの中にあったごぼうが越冬し、大きく育ったことから越冬ごぼう（堀川ごぼう）の栽培が始められたと言われており、この独特の栽培方法は、400 年以上の歴史を有する。



【九条ねぎ】

現在の伏見区深草の地で、和銅 4 年（711 年）に稲荷神社が建立された時に栽培が始まったとされ、歴史は古い。承和年代（834 年～847 年）には既に、九条で栽培されていたようである。



【みず菜】

京都で栽培されてきた野菜の中で、長い栽培の歴史を持つものの一つで、和名抄（935 年ごろ）に「みずな」の名が始めて記載されている。更に、天和 3 年（1683 年）に供物として用いたことが、また、貞享 3 年（1686 年）に東寺九条周辺で栽培されていた記載がある。



【京せり】

承和 5 年（838 年）の文献に、せりの栽培が記載されており、湧水がある低湿地を利用して、広く栽培された。現在のような湧水栽培が行われたのは、約 300 年前といわれている。



【新しい京野菜】

京唐菜



京てまり



表Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移

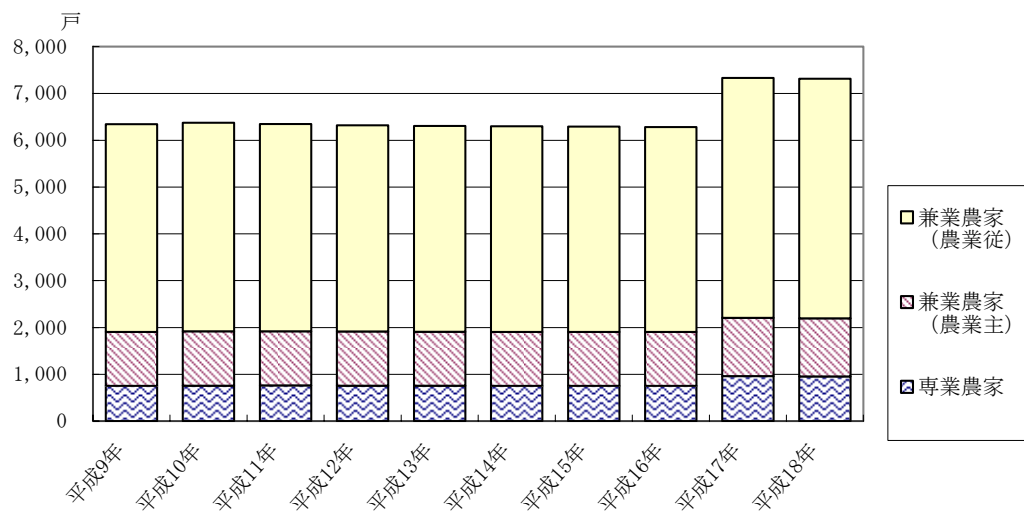
(単位：戸)

	専業農家	兼業農家（農業主）	兼業農家（農業従）	総農家戸数
平成 9 年	753	1,153	4,438	6,344
平成 10 年	759	1,161	4,454	6,374
平成 11 年	760	1,161	4,426	6,347
平成 12 年	757	1,158	4,407	6,322
平成 13 年	757	1,155	4,391	6,303
平成 14 年	750	1,155	4,392	6,297
平成 15 年	751	1,154	4,388	6,293
平成 16 年	750	1,152	4,383	6,285
平成 17 年	960	1,244	5,125	7,329
平成 18 年	954	1,242	5,117	7,313

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により，平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移

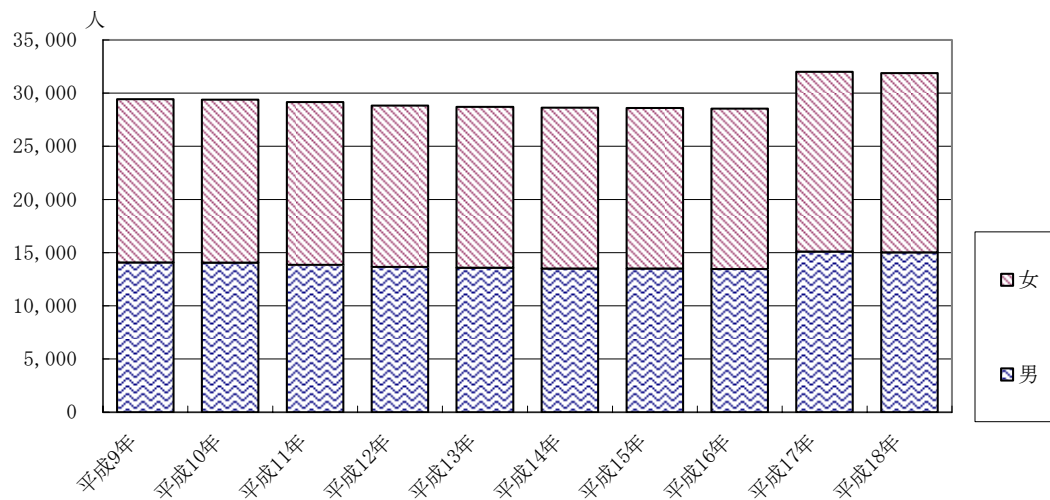
(単位：人)

	男	女	総 計
平成 9 年	14,079	15,346	29,425
平成 10 年	14,069	15,308	29,377
平成 11 年	13,856	15,294	29,150
平成 12 年	13,656	15,167	28,823
平成 13 年	13,585	15,115	28,700
平成 14 年	13,507	15,113	28,620
平成 15 年	13,499	15,104	28,603
平成 16 年	13,450	15,079	28,529
平成 17 年	15,102	16,896	31,998
平成 18 年	15,014	16,850	31,864

※平成17年4月1日の京北町との合併により，平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移

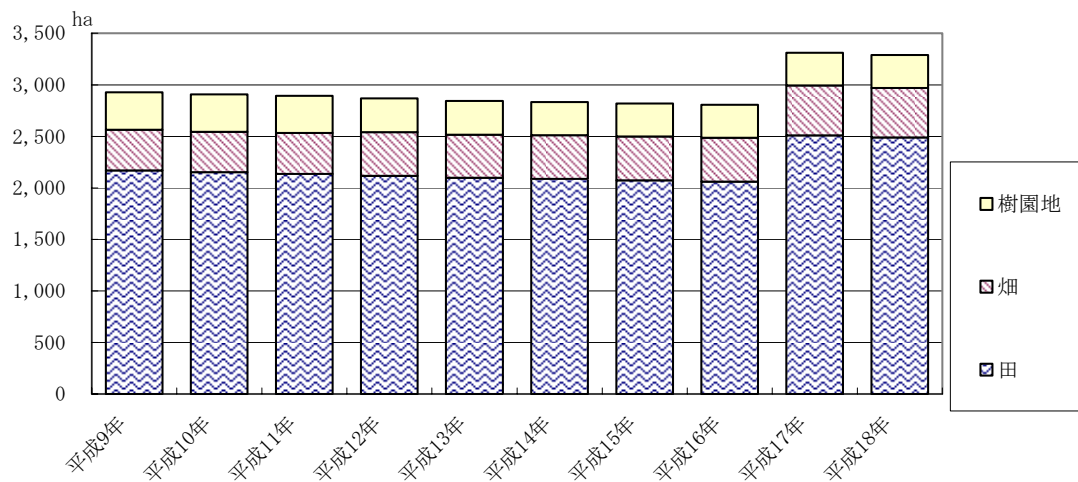
(単位：ha)

	田	畑	樹園地	合 計
平 成 9 年	2,169.6	394.5	363.9	2,928.0
平 成 10 年	2,151.5	392.3	363.4	2,907.2
平 成 11 年	2,135.3	399.2	358.7	2,893.2
平 成 12 年	2,117.2	424.1	327.2	2,868.5
平 成 13 年	2,098.0	419.2	325.2	2,842.4
平 成 14 年	2,087.0	424.3	322.6	2,833.9
平 成 15 年	2,073.2	425.3	321.5	2,820.0
平 成 16 年	2,061.7	424.7	318.9	2,805.3
平 成 17 年	2,510.0	483.6	318.3	3,311.9
平 成 18 年	2,488.5	480.3	320.2	3,289.0

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により，平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-4 農作粗生産額（平成18年）

	京都市 (単位：千万円)	京都府 (単位：億円)
米	143	191
麦類	-	0
雑穀・豆類	1	10
野菜	1,366	257
果実	27	19
花き	29	17
工芸農作物	0	46
種苗・苗木・その他	2	11
合計	1,228	552

資料：京都農林統計協会「平成18～19年京都農林水産統計年報」

京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

(3) 林業

◆ 概要

京都市の林業を取り巻く環境は、長期的な国産材需要や木材価格の低迷により、森林所有者の施業意欲の低下、林業就業者の減少、高齢化など、厳しい状況にある。そうした状況の下で、北山磨丸太に代表される高度で繊細な技術に支えられた林業生産活動が行われているほか、森林の持つ多様な機能を活用した林業地域の活性化が推進されている。一方、7割以上を占める広大な森林資源をまちづくりに生かすため、木材需要拡大や供給体制の整備のほか、平成17年4月の京北町との合併により、本市が引き継いだ約268haの広大な山林については、自然環境を生かすとともに、広く市民が活用でき、京北地域はもとより本市全体の発展につながるような方策や、市民や企業等の参画による森づくりなど、総合的な取組が今後の大きな課題となっている。

◆ 林業の状況

京都市の森林面積は、平成19年3月現在で61,108haとなっており、京都市総面積の73.8%を占めている。

市内における森林を経営形態別に見ると、個人が77.4%で最も多く、次いで会社の5.4%、慣行共有（民法上の入会権、地方自治法上の旧慣使用权によ

って使用収益している山林などを保有する集団の総称）の4.6%と続き、私有林が95%近くを占めている〔表Ⅱ-1-3-1、図Ⅱ-1-3-1〕。

所有規模別では、1ha以上の山林を所有する林家戸数は、2,160戸となっている。しかし、比較的経営が成り立つとされる20ha以上の山林を所有する林家は、264戸（全体の12.2%）にすぎない〔表Ⅱ-1-3-2〕。

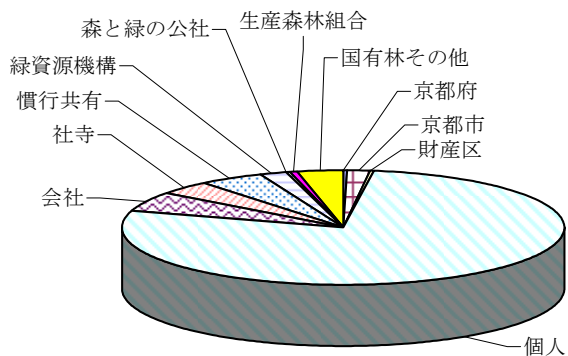
表Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積

（単位：ha）

公有林	京 都 府	210.14
	京 都 市	1,045.76
	財 産 区	141.73
私有林	個 人	47,316.47
	会 社	3,316.65
	社 寺	2,509.36
	慣 行 共 有	2,799.78
	緑 資 源 機 構	1,214.41
	森 と 緑 の 公 社	179.29
	生 産 森 林 組 合	280.87
国 有 林 そ の 他		2,093.20
森 林 面 積 合 計		61,107.66

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-3-2 所有規模別林家戸数

(単位：戸)

	1～3ha	3～5ha	5～10ha	10～20ha	20～30ha	30～50ha	50ha以上	合 計
北 区	176	65	62	41	17	18	20	399
上 京 区	15	3	1	5	2	1	3	30
左 京 区	216	95	96	67	29	26	22	551
中 京 区	41	5	3	3	1	2	1	56
東 山 区	11	4	2					17
下 京 区	16	5	3	3				27
南 区	4	1		1	1	1	2	10
右 京 区	295	127	124	68	27	31	33	705
伏 見 区	77	27	9	5	3	4	11	136
山 科 区	64	12	12	2	3		2	95
西 京 区	70	37	16	7	1	1	2	134
合 計	985	381	328	202	84	84	96	2,160

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

(4) 畜産業

◆ 概要

京都市の畜産業は、肉用牛（役牛を含む）、乳用牛、豚、鶏等の飼養を中心に行われており、平成18年度京都市農林統計資料によると、平成18年2月現在の家畜飼養戸数及び頭羽数は、乳用牛が4戸、89頭、肉用牛が5戸、60頭、馬が12戸、161頭、豚が2戸、22頭、山羊が2戸、15頭、綿羊が3戸、6頭、鶏が30戸、20,082羽、みつばちが3戸、204群となっている。

◆ 畜産業の状況

京都市の畜産物の自給率（平成17年）は、肉類が0.2%、牛乳が0.7%、鶏卵が1.3%となっている。

畜産物価格の低迷や将来性に対する不安、後継者難等により、年々飼養戸数が減少してきている。

しかも、畜産農家の36.1%が市街化区域内に存在しているため、市民生活における環境問題との調和を図るため、畜産環境の衛生的改善を目的とした巡回指導を行っている。

平成17年の市内における生産額は、牛肉が2,870万円、豚肉が234万円、牛乳が5,532万円、鶏卵が5,217万円、鶏肉が146万円となっている。生産額の総計は、前年に比べ59.2%減少し、平成11年と平成17年を比較すると、牛肉では53.0%、豚肉では98.7%、牛乳では47.1%と大幅な減少となったが、鶏卵のみ4.9%の増加となっている〔表Ⅱ-1-4-1、図Ⅱ-1-4-1〕。

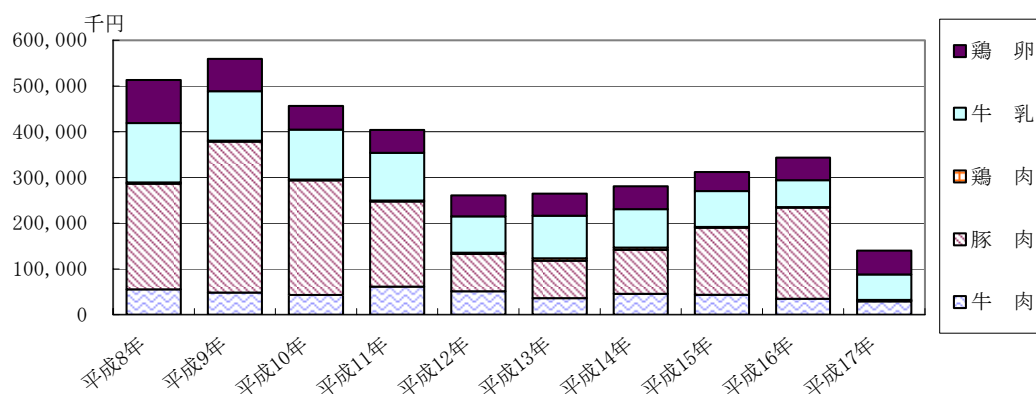
表Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移

（単位：千円）

	牛 肉	豚 肉	鶏 肉	牛 乳	鶏 卵	合 計
平 成 8 年	54,972	231,474	2,736	129,523	94,409	513,114
平 成 9 年	48,216	329,880	2,599	108,082	70,650	559,427
平 成 10 年	42,769	251,044	1,549	109,331	51,552	456,245
平 成 11 年	61,079	186,152	2,267	104,497	49,737	403,732
平 成 12 年	50,999	81,689	2,464	79,770	45,826	260,748
平 成 13 年	36,223	82,113	4,904	92,961	48,358	264,559
平 成 14 年	45,819	95,510	5,393	84,160	49,735	280,617
平 成 15 年	43,526	146,255	1,630	78,590	42,148	312,149
平 成 16 年	34,482	199,584	1,072	59,048	49,266	343,452
平 成 17 年	28,702	2,341	1,455	55,319	52,166	139,983

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

(5) 主要農林産物

◆ 水稻

稲作は、農業振興地域における農業生産の中心となっている。主食である「米」は、近年の状況から、高品質化とともに、より一層の生産性の効率化と低コスト化が求められている〔表Ⅱ-1-5-1、図Ⅱ-1-5-1〕。

◆ 野菜

野菜生産は、市街化区域における農業経営の中心を占めている。長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。市内農地の39%を占める市街化区域内の農地では、主に野菜が生産されており、市民の重要な生鮮食糧供給地となっている〔表Ⅱ-1-5-2、図Ⅱ-1-5-2〕。

◆ 花き

京都市は、生け花の発祥地として古くから花の文化の中心地であり、市民の花きに対する関心は非常に高いものがある。生産についても古い歴史を持っているが、生産量は需要を大きく下回っている。

主な産地と品目は、越畑のオミナエシ等盆花、大原野、向島、静原の花壇苗、桃山の枝物などである〔表Ⅱ-1-5-3、図Ⅱ-1-5-3〕。

◆ 果樹

果樹生産は、かき、ぶどう、ゆずが中心で、市場出荷は少なく、主に直売、観光農業として経営が行われている〔表Ⅱ-1-5-4、図Ⅱ-1-5-4〕。

◆ 木材

京都市では、磨丸太用のスギ、柱や桁等の原木となる一般用材用のスギ、ヒノキ、マツ、そして、家具材やパルプ材等となる広葉樹と、使用目的により様々な素材が生産されている〔表Ⅱ-1-5-5、図Ⅱ-1-5-5〕。

表Ⅱ-1-5-1 水稻

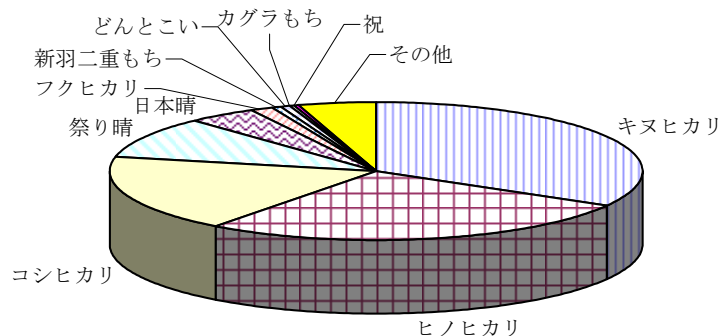
主要品種の作付状況

(単位：ha)

品 種	作付面積
キヌヒカリ	461.0
ヒノヒカリ	374.0
コシヒカリ	247.9
祭り晴	134.1
日本晴	59.1
フクヒカリ	17.9
新羽二重もち	9.5
どんとこい	7.4
カグラもち	5.0
祝	3.2
その他	64.7
合 計	1,383.8

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-1 主要品種の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-5-2 野菜

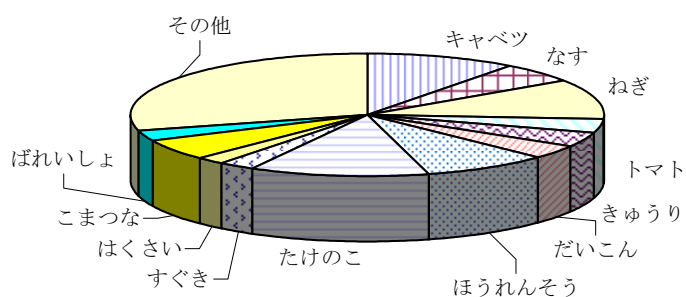
普通野菜の作付状況

(単位：ha)

品 目	作付面積
キ ャ ベ ツ	155.4
な す	79.2
ね ぎ	161.0
ト マ ト	57.3
き ゅ う り	58.1
だ い こ ん	53.3
ほ う れ ん そ う	130.4
た け の こ	184.5
す ぐ き	40.4
は く さ い	31.0
こ ま つ な	83.1
ば れ い し ょ	41.8
そ の 他	442.1
合 計	1,517.6

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-5-3 花き

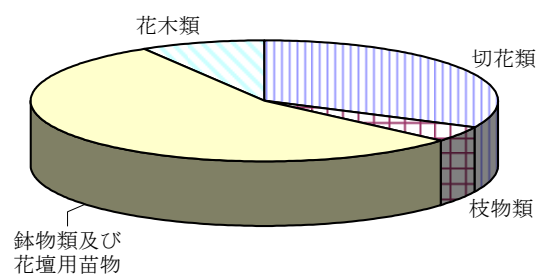
花き栽培の状況

(単位：ha)

	作付面積
切花類	781
枝物類	104
鉢物類及び花壇用苗物	1,337
花木類	206
合 計	2,428

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-5-4 果樹

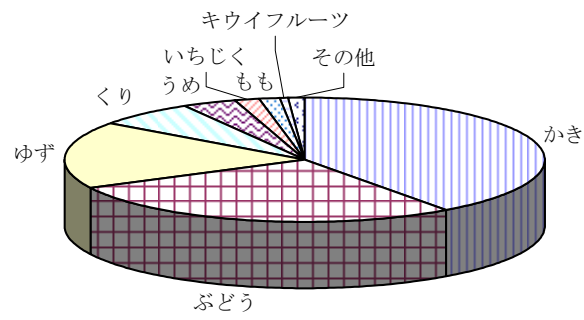
果樹栽培の状況

(単位：ha)

品 目	栽培面積
かき	24.4
ぶどう	16.7
ゆず	10.6
くり	4.1
うめ	2.2
いちじく	1.0
もも	0.9
キウイフルーツ	0.4
その他	0.6
合 計	60.9

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況



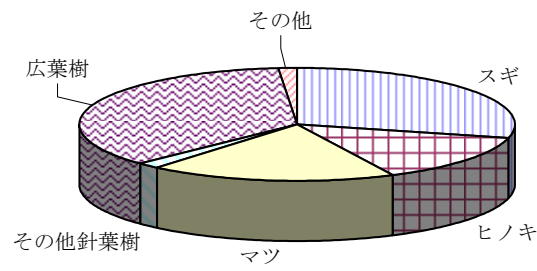
資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-5-5 木材
林地・樹種別面積の状況（私有林）
(単位：ha)

樹 種 別		面 積
針 葉 樹	スギ	17,161.57
	ヒノキ	8,192.84
	マツ	10,912.39
	そ の 他	956.66
	計	37,223.46
広 葉 樹		21,156.26
そ の 他		878.09
合 計		59,257.81

資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-5 林地・樹種面積の状況



資料：京都市産業観光局「平成18年度京都市農林統計資料」